

# 千葉県立農業大学校の概要

## 1 本校の設置者

「千葉県立農業大学校設置管理条例」及び「千葉県立農業大学校管理規則」に基づいて千葉県が設置しています。

## 2 本校の特徴

農林水産省所管の農業改良助長法に基づく「農業者研修教育施設」であり、以下の特徴を有しています。

- (1) 本校は、千葉県農業の担い手を養成する中核的な機関として位置付けられています。
- (2) 本校は、千葉県農業に関わる行政、普及機関、試験研究機関との連携強化を図っています。
- (3) 授業時間の割合は、講義・実験・演習が概ね50%、実習が概ね50%であり、実習を重視した実践的な農業教育を行っています。
- (4) 専攻コースとして、11の多彩な専攻教室（作物、施設野菜、露地野菜、果樹園芸、花き園芸、畜産、情報経営、食品加工、生物工学、土壌肥料、病害虫）を設けています。
- (5) 千葉県における就農準備資金の研修機関に認定されています。
- (6) 農学科1学年全員が「寮生活」を送り、自立と協調の精神、リーダーシップ等のかん養を図ります。

## 3 「専修学校」のメリット

本校は、文部科学省所管の学校教育法に基づく専修学校で、以下のメリットがあります。

- (1) 卒業生には、農学科、研究科ともに「専門士」の称号を授与します。
- (2) 4年制大学への編入が可能です。
- (3) 独立行政法人日本学生支援機構等の奨学金制度が利用できます。
- (4) 職業安定法に基づく無料職業紹介事業を行っています。

## 4 農学科及び研究科の概要

### (1) 農業専門課程 農学科

ア 修業年限は2年、定員は1学年80名、2学年80名、計160名です。

イ 卒業に必要な授業単位数は112単位以上、授業時間数は2,400時間以上です。

ウ 農業に関する実践的な知識、技術、経営管理能力を有する農業の担い手を育成します。

エ 広い視野を持つための教養科目と農業に関連した専門科目が両立しています。

オ 「農場実習」、「食品加工実習」、「専攻実習」などの実習により、農業又は農業関連産業などで即戦力となる知識と技術を学べます。

カ 「農業派遣実習」により、先進農家や関係機関への派遣等を通じて、実地の農業を体験できます。

キ 「国際農業実習」により、国際感覚を身に付け、異なる気候条件や社会・経済条件の下で行われる農業を体験できます。

ク 1学年の前期は、全ての専攻教室の農場実習を体験し、幅広く学習します。後期から専攻教室に所属し、興味・関心のある分野を掘り下げて学習します。

ケ 2学年では、所属する専攻教室で、自らが課題設定したプロジェクト研究を行い、卒業論文をとりまとめます。

コ 「キャリア基礎講座」など、進路・志望に応じたキャリア教育が充実しています。

## (2) 農業専門課程 研究科

ア 修業年限は2年、定員は1学年20名、2学年20名、計40名です。

イ 卒業に必要な授業単位数は105単位以上、授業時間数は2,550時間以上です。

ウ 農業に関する実践的かつ専門的な知識、技術、高度な経営管理能力を有する農業の担い手や指導者を育成します。

エ カリキュラムの中で、農産物の生産から流通までの過程を総合的に学習できます。

オ 1学年から専攻教室に所属して、自らが課題設定したプロジェクト研究を行い、研究成果をとりまとめます。

カ 生徒が運営する「千葉農大商店模擬会社」を通じて、起業・流通・販売の企業的なアグリビジネスを体験できます。

キ 「インターンシップ研修」など、進路・志望に応じたキャリア教育が充実しています。

# 校訓

# 「志農創造」

農業を志した以上は、常に高い理想のもとに国際化、技術革新・情報化など、時代の要求を的確にとらえ、旺盛な向学心を持って新しい農業を創造し、その使命に応える農業人とならなければならない。

# 教育理念

本校は、千葉県農業の発展に寄与する優れた担い手及び指導者の育成を教育目標に掲げ、次の四つを教育理念としています。

- 広い視野を持つ豊かな人間性の形成
- 高度な専門的知識・技術・経営管理能力の習得
- 地域社会における指導者としての資質の養成
- 土に根ざした実践力のかん養



# 沿革

本校の前身である千葉県農業大学校は、農業短期大学校と農業経営短期大学校を統合し、昭和54年に本県唯一の農業者研修教育施設として、東金市に開校しました。その後、平成24年に専修学校「千葉県立農業大学校」となりました。これまでに3,279名の卒業生を社会に送り出しています。

# 施設の概要

本校は、本館、体育館、学生寮等の施設、学習に必要な設備、実習農場等を備えています。

## ● 本校施設(東金市家之子)

建物・施設 7ha  
実習農場等 8ha

## ● 農業研修施設(東金市油井)

実習農場等 4ha

## ● 農業機械化研修施設(千葉市緑区)

運転技能研修コース 4ha



# 千葉県立農業大学校の魅力

温暖な気候と豊かな大地に恵まれた千葉県は全国有数の農業県であり、当校の多くの卒業生が県内の農業分野で活躍しています。

このような恵まれた環境の中で、実践的な農業を学ぶことができます。

## 充実したカリキュラム

### ● 幅広く学べるカリキュラム構成

農産物の生産、家畜の飼育をはじめマーケティング、スマート農業、食品加工等

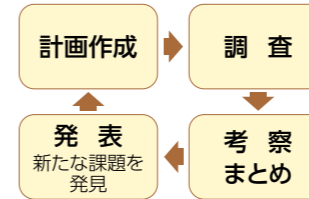
### ● 進路決定をサポート

一人ひとりの進路を実現するために年間を通じてキャリアサポートを実施

- ◆ キャリア基礎講座(農学科)
- ◆ キャリアサポート実習(農学科)
- ◆ 職業紹介業務に基づく進路指導(農学科、研究科)

### ● 課題解決型学習の取組

自ら課題を設定し、栽培等計画を作成。課題に基づく調査・研究を行い、課題解決能力を養う課題解決型学習を実施



## 実践農業の体験学習

### ● 先進農家等への派遣実習(農学科)

優れた先進農家等で、一定期間仕事や生活を共にし、農業の現実や優れた栽培技術を学ぶ農業派遣実習

### ● インターンシップ研修(研究科)

農業関連企業・機関等で職業体験を行い、職業観の醸成、経営や販売戦略、消費者重視の生産・流通、地域づくりなどを実践的に学ぶインターンシップ研修

## 少ない経費負担

## 快適な学習環境



## 多彩な11の専攻教室(農学科、研究科)

- ◆ 作物 ◆ 施設野菜 ◆ 露地野菜 ◆ 果樹園芸
- ◆ 花き園芸 ◆ 畜産 ◆ 情報経営 ◆ 食品加工
- ◆ 生物工学 ◆ 土壌肥料 ◆ 病害虫

## ビジネス感覚を養う農業経営の学習

### ● 専攻実習で直売を実践(農学科)

### ● 経営感覚を学ぶ「模擬会社」(研究科)

- ◆ 農業経営実習の授業で模擬会社を運営
- ◆ 本校で生産した農畜産物や加工品の販売、観光農園の運営



## 専修学校のメリット

- ◆ 専門士(農業専門課程)の称号を付与
- ◆ 4年制大学編入学が可能
- ◆ 日本学生支援機構等の奨学金制度が利用可能
- ◆ 就農・就職に対する充実した支援

## 多様な免許・資格の取得

- ◆ 大型特殊自動車(農耕車限定) ◆ 農業機械士
  - ◆ 小型車両系建設機械 ◆ フォークリフト ◆ 家畜商
  - ◆ 日本農業技術検定 ◆ 日商簿記
  - ◆ 毒物劇物取扱者 ◆ 食品衛生責任者 ほか
- ※取得に別途経費が必要な免許・資格が含まれます。

## 寮生活による仲間づくり

- ◆ 農学科1年生全員による寮生活

# TOPICS

## スマート農業施設・機器を活用した実習

### ●環境制御ハウス

高さ5.3メートルのハウスで、養液栽培システムが導入されています。この施設では、窓やカーテン、暖房、炭酸ガスの発生機等を自動で制御することができます。現在、学生の研究用にトマトやパプリカを栽培しており、スマートフォン等でハウス環境を整え、植物の生育状況とデータに基づいた管理を行うなど、研究に有効活用しています。



### ●牛行動モニタリングシステム

牛の首や尾などに装着したセンサーによって、牛の採食や反芻<sup>はんすう</sup>など様々な行動をモニタリングし、その蓄積データを解析することで、通常、日々の観察で発見している発情や疾病、分娩兆候を検知することが可能となります。解析結果はスマートフォン等にリアルタイムで通知され、学生は観察と照らし合わせながらシステムを使用しています。また蓄積データを卒業論文に利用しています。



### ●食味・収量センサ付きコンバイン

水稻や小麦を収穫しながら、ほ場ごとの水分とタンパク質含量、収量をリアルタイムで測定することができます。ほ場ごとの品質と収量を把握することで、次作の施肥量や作付計画に反映することができます。



### ●スマート農業の授業

スマート農業関連機械実演会では、ドローン、自動運転トラクター、ラジコン草刈り機等の最新のスマート農業機械類の操作体験等を行います。

また、新農業技術論の授業では、スマート農業の導入事例などを学ぶことができます。



## 6次産業化の技術を習得

### ●食品加工実習

農学科の食品加工実習では、農産物の生産だけでなく、加工(2次産業)、販売(3次産業)まで取り組む6次産業化について知識を習得します。農産物の加工技術の基礎や原理について学び、農産物を利活用した食品加工技術を身に付けています。

### ●加工・商品開発演習

研究科の加工・商品開発演習では、テーマとする農産物を取り上げ、商品化に向けて農産物マーケティングを学びながら、年間を通じて加工演習に取り組んでいます。1年間の総まとめとして、協力をいただいた生産者をお招きし、商品成果報告会を行います。



## GLOBALG.A.P.の取得推進

農業経営に必須である「労働安全」や「食品安全」、「環境保全」等のGAP(農業生産工程管理)の取組を実践するため、GLOBALG.A.P.認証取得を進めています。

令和5年7月には果樹園芸専攻教室でブルーベリーの公開審査を受検し、9月に認証を取得しました。取組では、学生と教職員が一丸となり農薬散布や機械利用など全ての作業について、具体的に使用道具をあげながら危険箇所の評価を行うと共に、安全性が担保できる管理手順書の作成などを行いました。

今後も、幅広い品目でGAPの実践を進め、GLOBALG.A.P.認証の取得を目指していきます。

